

公益社団法人日本山岳会創立 120 周年記念事業
ヒマラヤキャンプ登山隊 2022 プンギ

登山計画書



2022年プンギ遠征に際して

今回のプンギ遠征は当初、2020年春に行われる予定でした。

2019年秋よりメンバーを選定し、国内でのトレーニングを行ない、ビザ取得等の手続きをし、準備を進めていました。しかし、出発直前の2020年3月、新型コロナウイルスのパンデミックにより、ネパールへの渡航が困難となってしまい、遠征計画の中断を余儀なくされました。

2020年秋、2021年春へと遠征計画を繰り越す動きもありましたが、コロナウイルスの猛威により、実現とはなりません。世界がコロナ禍に見舞われ、私達はヒマラヤという大きな目標を失いながらも、時間が出来たことをチャンスと捉え、来たるヒマラヤ遠征に向けて研鑽を絶やさず、トレーニングを継続していました。

2年という歳月が経ち、当初の計画からはメンバーの変更もありましたが、隊として粘り強くチャンスを窺っていました。

そして、私達はコロナウイルスによる制約が緩和されてきた昨今の情勢に鑑みて、2022年秋に遠征を行なう事を決意致しました。「山は逃げない」とはよく聞く言葉ですが、いつまでも様子を見ているだけでは、時間はただ過ぎ去っていくばかりで、プンギの”未踏峰登頂“という機会は失われてしまうかもしれません。

実際にコロナ禍においても、世界の山々で遠征が行われているという情報も数多く耳に入っていました。今回こそは、2年越しの遠征計画を遂行し、次のステップへと進みたいと思っています。

日本山岳会ヒマラヤキャンプ登山隊2022 隊員一同

1. 隊の名称：日本山岳会ヒマラヤキャンプ登山隊 2022
The Japanese Alpine Club Himalaya Camp 2022 Phungi
2. 目的：ヒマラヤ山脈未踏峰登頂及び、ヒマラヤ登山に関する技術の伝承。
若手によるヒマラヤ登山の実現。
3. 目標：ブンギ（6524m）初登頂
4. 山城：アンナプルナ山城・ペリヒマール山群
5. 期間：ポストモンスーン（2022年10月～11月）
6. 隊員：

名前：花谷 泰広（はなたに やすひろ）

役割：プロジェクトリーダー

会員番号：13552

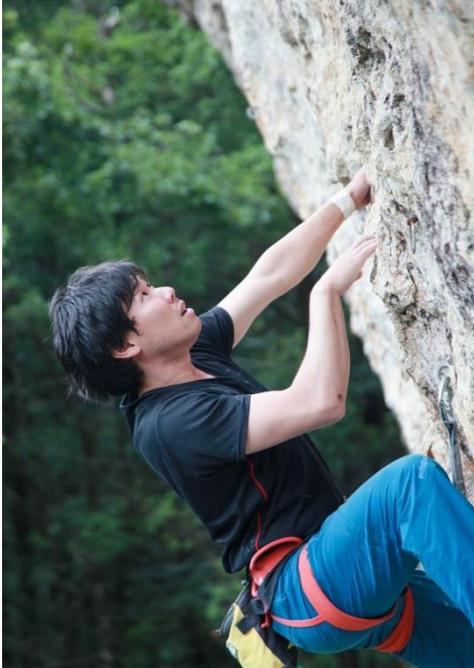
※ベースキャンプまで同行



ヒマラヤキャンププロジェクトリーダー。

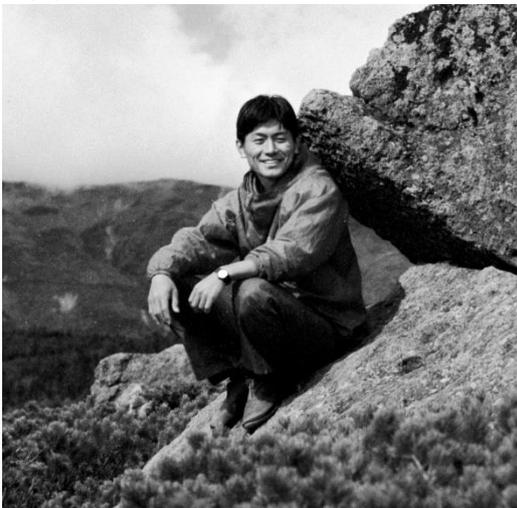
1976年兵庫県生まれ。1996年にラトナチュリ（ネパール・7035m）に初登頂。以来、世界各地で登山を実践。2012年にキャシャール（ネパール・6770m）南ピラー初登攀で、ピオレドール賞を受賞。2015年より若手登山家養成プロジェクト「ヒマラヤキャンプ」を開始、2017年より甲斐駒ヶ岳黒戸尾根の七丈小屋の運営を開始するなど、国内外で幅広く活動中。日本山岳ガイド協会認定・山岳ガイドステージII、北杜市ふるさと親善大使。本遠征ではベースキャンプまで同行し、隊員たちをサポートする。

名前：後藤 希介（ごとう きすけ）
役割：リーダー・保険
会員番号：A0295



2022 隊リーダー。
1989 年愛知県生まれ。社会人になってから山を始め、漠然とヒマラヤなどの高峰に憧れをもち、山岳会に入会して山を学ぶ。国内での経験を積み、憧れであったヒマラヤ未踏峰への挑戦を決意してヒマラヤキャンプに参加する。山で自由になる事を目標として、アルパインクライミングや沢登り、冬季登攀など一年を通して山に通う。

名前：加々見 太地（かがみ たいち）
役割：支援・記録
会員番号：A0278



1993 年神奈川県生まれ。2020 年東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。小学生の頃に椎名誠、植村直己、星野道夫等の著作を読み、自然への興味を抱いて山歩きを始める。海外の大きな山に憧れて、2018 年にエベレスト街道を旅し、アイランドピーク（6189m）に登って以来、本格的に登山と向き合うようになった。登山やクライミングに勤しみつつ、彫刻家、美術家として活動しており、山の経験から得られた自然界の肌触りを芸術表現に落とし込んでいる。

名前：安達 正貴（あだち まさき）

役割：装備・医療

会員番号：A0457



1996年埼玉県生まれ。高校時代に登山と出会い、新潟の登山専門学校へ進学。3年間山の基礎を学び、四季に合わせて登山やクライミング、スキーなどを行う。卒業後は海外での登攀を志し、10ヶ月間カナダで車中泊生活をしながら滞在し経験を積む。ヒマラヤへの挑戦は、より登山家として高みを目指す為に参加を決意した。

7. 予算：

総費用 約 447～463 万円 (1 \$ 140 円～150 円計算)

カンگریトレック費用 130～139 万円

【登山料、特定地域入域許可取得手続き料、サードナー・キッチンボーイ・リエゾンオフィサー給料と装備代と保険（キッチンボーイの給料含まれない）、ロバ代、カトマンズホテル代、レンタル装備代、交通費、手数料】

燃料・食料費 26.6～28.4 万円

【ハイキャンプガス代・食料代、カトマンズ・キャラバン中食費】

ボーナス 10.8～11.7 万円

【サードナー兼コック・キッチンボーイボーナス、キッチンボーイ給料】

宿泊費 26～27 万円

【キャラバン中のメンバー＋サードナー・キッチンボーイ】

その他 63.4～67.8 万

【カトマンズ交通費、PCR 検査代、ネパールビザ代、診断書料金、コロナウイルス対策費】

日本国内経費 190 万円

【装備持込品、食料持込品、航空券、山岳保険、医療品、天気予報、通信費】

収入 総額 500 万円

個人負担金 1,050,000 円 (@300,000 円、花谷はBCまで150,000 円)

日本山岳会 1,000,000 円

企業協賛 2,300,000 円

募金 650,000 円 (予定、支出増により増額の可能性あり)

8. 日程：

- 1 日目カトマンズ到着
 - 2～4 日手続き・準備
 - 5 日目カトマンズ出発→ベシサハール 823m（車移動）
 - 6 日目ベシハサール→コト 2610m（車移動）
 - 7 日目コト→メタ 3560mキャラバン
 - 8 日目メタ→キャン 3800m
 - 9 日目キャン→プーガオン 4100m（最終の村）
 - 10 日目順応日
 - 11 日目プーガオン→ラトナチュリ BC 5100m～5200m
 - 12～31 日目登山期間（20 日間）
 - 32 日目撤収準備
 - 33 日目ラトナチュリ BC→プーガオン
 - 34 日目プーガオン→メタ
 - 35 日目メタ→コト
 - 36 日目コト→ベシサハール
 - 37 日目ベシサハール→カトマンズ
 - 38-39 日目片付け・手続き
 - 40 日目遠征期間終了、
 - 42 日目日本帰国
- 【遠征合計日数 42 日間】

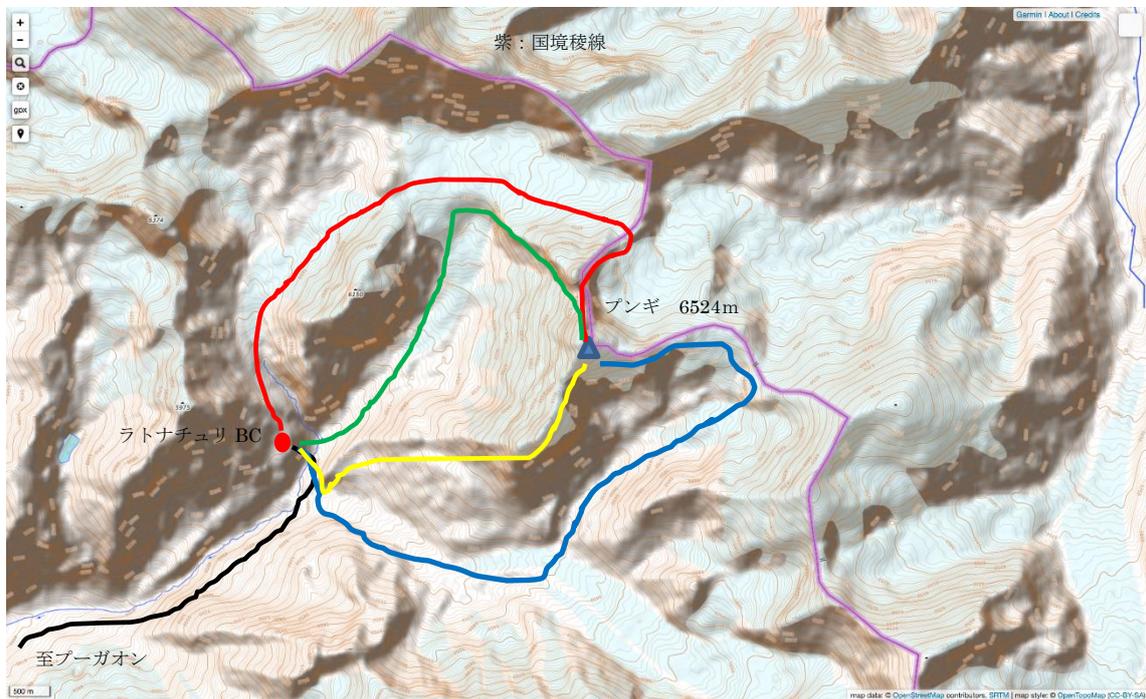
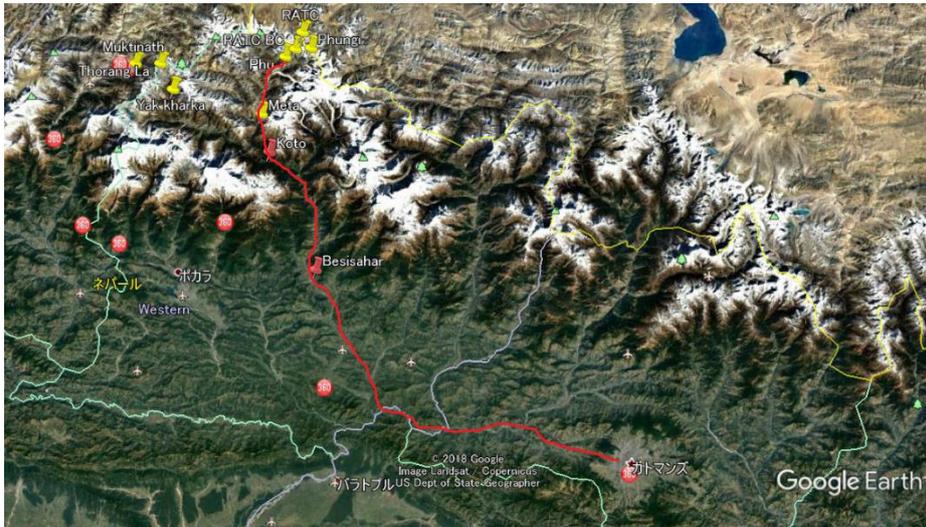
9. 登山隊事務局・留守本部

柏 澄子（ヒマラヤキャンプ事務局、常務理事） BYY06320@nifty.com

10. ネパール・エージェント

Kangri Trek (P) Ltd.
Naxal, Bhagwati, Bahal, Kumari Marg,
Kathmandu, Nepal
TEL: 00977-1-4414633, 4414644
E-mail: khangritrek@mos.com.np
代表 Pasang K Sherpa

11. 登山ルート：



- 1 赤ルート：ラトナチュリ BC より氷河をつめて北東尾根にのり山頂
- 2 緑ルート：途中アイスフォール帯があり行けるか不明。最短ルート
- 3 黄ルート：南西にのびる尾根を登る。氷河歩行はないが登頂の可能性はある。
- 4 青ルート：氷河をつめて東尾根にのり山頂

以上の4ルートを偵察し、最も登頂の可能性が高いルートから山頂を目指す